



『補修の美学 —ガラス質の家の日常—』

ガラス質でできた家。ガラス質は繊細ですぐに割れてしまったりヒビが入ってしまいます。しかし、住まい手がそれを新しいガラスで補修していくことで思い出や苦労を家が記憶してくれるのです。思い出が増える度に曖昧に組み立てられるガラス質は新たな境界や繋がりを生み、新しい小さな日常を生みます。ガラス質の家の住人は、『日常とは壊れながらも組み立てていくものである』という美学を持っているのです。

